

ロードスター派とハチロク派
編集部内で朝まで討論

AE86派代表 イケ丸



編集部・ハチロクバカ・イケ丸(本文中:イ)。ハチロク歴は3台目。「ハチロクは何にも気兼ねしないで全開にできるからいい」と考えている。ドラテク向上至上主義。

ロードスター教 クロマツ教祖



編集部クロマツ(本文中:ク)。M2・1028の出来にいたく感動。1028をお手本に、「1028の輝きを追い越すロードスターを作る」プロジェクトを現在進行中。まだ先は長い...

VS

イ:見た目はキテますよねM2って。ゴツイローバーが入っていて、革レース仕様みたい。でも、ハチロクに強化ブッシュを入れて、シヨック変えて、LSDを効かせりゃ、1028ぐらいにはなるんじゃない? これでユーノス乗りから絶賛されてんだから……、ひよっとして、ユーノスに乗ってる人って楽しみを知らなすぎるのかな?

ク:バカクレ! これだからハチロク乗りは困る。1028のストイところは、実はトータルバランスがめちゃ高いことなんだよ。基本がしっかりしてんだ。ハチロクに強化ブッシュ入れてあーだこーだやったところで、しょせんは峠仕様のガチガチ車になるだけだろ。ハチロクって、いかにも車細胞だよな。オーナーがそうだから、仕方ないか。

イ:ヤダネ、ロードスター乗りのそういうところでも、M2に乗ってみて1028の追い求めているものが、10年前(そして現在)にハチロクに乗っていたヤツがやっていた古典的なことと同じように思えてきて。

ク:なんかM2って時代を戻しているというかなんちゅうか? ひよっとしたらクルマを全開にして楽しいと思う要素って、普遍的なものかもしれないけど……。だったらクルマは進化する必要はないのかも!?

イ:おっと、クルマを楽しむ要素って、そりゃ普遍的なものじゃないの。時代を戻して戻ってんだけよ。クルマは進化する必要があるけど、人間を離れたところでメカだけが先走ったって意味がない。

ク:でもM2のエンジンは速いノーマルはトングメなのに。シャシダイけたら1400psだ。でも金かかってんだもん、当然だわな。280万円しちゃうんでしょ。GTRなら中古車、シルビアなら新車が買えちゃう。ユーノスなのに。

ク:スカホントン。やっつてること

新旧ライトウェイトFR 楽しさ対決

ロードスターを「マジなスポーツカーにしよう」とM2が気合を入れて作ったM2・1028。対して生産中止になって数年たつのに、いまだに高い人気を誇るAE86。さて、最新ライトウェイトFRと10年前FRとで、走る楽しさに違いはあるのか?

M2
1028

VS

AE
86

を思えば、1028は厳格に安いんだぜ。まあ、ユーノスそのものが割高感があることは認める。

イ:ハチロクに乗っているヤツは、絶対ユーノスには目はいかない。ハチロクに乗りながら、S13とか次に乗りたいたいクルマが常に頭にあって。ステップアップというか、上を向いている。でもユーノスに乗っていると、FCなりFDなりにステップアップを考えると、FCなりFDそのクルマで自己完結しちゃっているんだな。

ク:それだけ惚れ込んじゃうんだよ。こんなクルマ、他にあるか? 国産車じゃないぜ。ハチロクは単なるお遊び車。ユーノスはもっと奥が深い。だから、簡単には手放さないんだ。

イ:ユーノスはゴテゴテ・ドレスアップしちゃう。ハチロクの場合は、シンプルなのがカッコいいから、サイドモーターとかは取っ払っちゃったりしてね。まあ3ドアの場合はTRDリアツ羽根をつけるのがオキマリだけど。

ク:ユーノスにはオキマリじゃないぜ。ドレスアップも自由だし、シンプルに決めるのだって自由。型にはまらないのが、ユーノスの最大の魅力なの。

イ:でも、10年前のハチロクと、M2とで、クルマが新しいからって、受ける印象が新鮮なものかっていうと、そうでもなかった。

ク:だから、M2とハチロクを一緒にスナッての。



レース走行会では独立した「ロードスタークラス」を作らないと、ロードスター乗りは出場しない。なぜなら他のテンロククラスと走っても、負けるだけだからだ。これはロードスター乗りの自尊心を大いに汚す。や〜ね〜。



その昔、モータースポーツ界をハチロク一色に染めただけ合って、どのようにイジろうともパーツにはここかかないのもハチロクの魅力。カラーリングをはじめ、オリジナルで乗っているヤツはほとんどいない。



ロードスター乗りでドリフト小僧も、少数ながら生息。鬼キャンにしても似合わない目立たないのがツライところ。ただしハチロクみたいに、何も気にせずガンガン練習できるような耐久性はロードスターは……ない。



2ドア、3ドア、レビン、トレノ、年式によって形はちよとちよと違うが、基本的にはどこも変わらないAE86。大切に乗りつければ、将来的にプレミアが付くことは分かっているが、そんなことはできないのがハチロク乗り。

決着

会話は平行線をたどり
朝5時まで続いた……

この後、編集部ではシルビア派、FF派、そして外車派も入り交じり、終切り間際にも聞わらず、延々と議論(というかヨク話)が繰り返されることとなった。

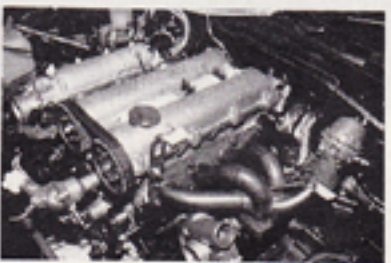
しかし派閥的に見ると、ニューズ出版ではロードスター派が多数を占める。ハチロク3台、ロードスターは6台。そのため論議で、強引にロードスター派は実権を握ろうとする。しかもウチの会社はREV臨時増刊「ロード&スター102」を11月17日に発売したばかり。だから、ここではロードスターの勝ちにしとこう。

レーシングスポーツ アクティブ



タービンにはKKK製K3Tを搭載。自作のカムはIN264度でEX272度。ピストンはBPターボ用だ。ブースト1.2kg/cm²で380馬力。許容範囲内の1.4kg/cm²だと400馬力を発揮するモンスターエンジンだ。

ユアーズスポーツ



アクティブと同じく、タービンはK3T。カムはノーマル流用でIN&EXともに250度。ピストンも同じくBPターボ用だ。最高出力もブースト1.2kg/cm²で380馬力を発揮。さらにスペシャルミッションも搭載する。

トライアル



1600NAチューンで最速に挑むトライアル。81番ピストンで1722ccにアップ。4連スロットルでトルクとパワーを絞り出す。今回はヘッドにスペシャル加工を施しており、未知数のポテンシャルを秘めている。

フルチューンロードスター3台が、筑波で最速バトル対決を敢行するぞ。

シヨップのヨロ意気は大拍手!

スーパーロードスターはあくまでストリートマシンの頂点を目指すけれど、もうひとつの夢として、フルチューンを徹底して追求するという方向性もある。チューニングの持つ可能性を、とにかくどこまでも掘り下げていくわけだ。

ここでみんなにビッグニュースを伝えておきたい。11月15日開催の筑波スーパーバトルに、3台のフルチューン・ロードスターが集結することになったのだ。本誌が発売された時にはもう結果が出るけれど、エントリーするのはアクティブ、ユアーズスポーツ、トライアルの3ファクトリー。

この2台にNAフルチューンで真向勝負を挑むのがトライアル。GT-Rでの出場予定をわざわざロードスターに変更するという熱の入りがうだ。1600ベースの1722ccポアアップバージョンで、もちろんトライアル得意の4連スロットルを装着。今回はヘッド回りに徹底して

手を加えていて、「メチャ速いで」とはマツキーさん。どんな手を加えたかは「まだ秘密、いい結果が出たら教えます」とのことだ。

サーキットアタックに的を絞り込んだシヨップならではのフルチューン・スペシャルも、ヒジョーに面白い。この3ファクトリーが真向から対決して、果たしてどんな結果が出るか? 意地とメンツのぶつかり合い。あり、スーパーバトルが待ち遠しい。次号の結果をお楽しみに!

NEW GOODS

アイデア商品がゾクゾク登場。これだからユースは面白い。

ガレージベリー
シュトロセックタイプライトカバー



ドレスアップアイテムにはもってこいの「シュトロセックタイプライトカバー」が登場した。写真のようなツインホールタイプで、目もとがぐんと引き締まる。受注生産で価格はヘッドライトによって異なるので、電話にて確認しておくれ。■ガレージベリー ☎048-422-6504

プロト・アビエーション
ボンネットウイング



ロード&スターのP59で紹介したボンネットウイングが、発売を前にさらに機能性をアップ。形状をよりワイド化させ、ウィンドウに向かって微妙なアールを持たせた。材質はカーボンで、ライトカバーとセットで8万5000円。■プロト・アビエーション ☎03-3439-3625

トライアルプロジェクト
スーパードライビングシューズ



2万8000円の走行会スーツでド肝を抜いたトライアルから、今度はスーパードライビングシューズが登場。普段履きからサーキットまでOKで、価格は1万6000円。もちろんアディダスとの共同開発。ブルーとレッドの2種類。■トライアルプロジェクト ☎0722-54-9777